

**令和6年度
自己評価・取組みの概要**

令和7年3月31日

御茶の水美術専門学校

目 次

<u>教育目標と本年度の重点目標の評価</u>	1
<u>基準 1 教育理念・目的・育成人材像</u>	2
<u>基準 2 学校運営</u>	3
<u>基準 3 教育活動</u>	4
<u>基準 4 学修成果</u>	5
<u>基準 5 学生支援</u>	6
<u>基準 6 教育環境</u>	7
<u>基準 7 学生の募集と受入れ</u>	8
<u>基準 8 財務</u>	9
<u>基準 9 法令等の遵守</u>	10
<u>基準 10 社会貢献・地域貢献</u>	11

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和6年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>【教育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界に文化で貢献する」これは、御茶の水美術専門学校の建学の精神であり、教育理念でもある。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では、生物学者である創立者の意思を受け継ぎ、学生の将来の展望を明るくものとする為、まずは学校の文化としてサーキュラーエコノミーを定着させることを教育目標とする。その成果として、ネイチャーポジティブの実現し、維持できる人材を育成して輩出する。 ・サーキュラーエコノミーを推進する為に、学生には実践的なサーキュラーエコノミービジネスを学ぶ機会を提供する。具体的には産学連携授業にて、学生によるプロジェクトチームを編成し、企業や団体の出題をもとに課題発見から解決までを行う。これに対して本校は、デザイン、マーケティング、サステナブルの3要素を主軸とした教育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生にサーキュラーエコノミーの実際と進捗を知る機会を提供する為に、国連グローバルコンパクト会員や日本サーキュラーエコノミーパートナーシップ会員である企業や団体との産学連携を重点的に行う。ただし、同じ目的のもと上記会員ではない企業や団体とも産学連携を行う。 ・教員が当事者意識を持ってサーキュラーエコノミービジネスを指導できるようにする為に、国連グローバルコンパクトや日本サーキュラーエコノミーパートナーシップが主催する研修に積極的に参加するように働きかける。 ・学校がコンプライアンスを遵守する為に、アウトソーシングした方が効率のよい業務や、デジタルトランスフォーメーションできる業務を見極め、これを実行する。これにより、常勤職員、及び教員が余裕をもって丁寧に業務を遂行できる時間を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、国連グローバルコンパクト会員としては、ANA エアポートサービス株式会社、コニカミノルタ株式会社、資生堂ジャパン株式会社、公益財団法人日本サッカー協会との産学連携が実現できた。日本サーキュラーエコノミーパートナーシップ会員としては、サンスター株式会社、UC 上島珈琲株式会社との産学連携が実現できた。その他、日本エヌ・ユー・エス株式会社などに二酸化炭素を地中に埋める CSS 技術に携わる企業らとの産学連携も果たせた。 ・本年度の教員研修については、新人教員を、産学連携を軸にデザイン、マーケティング、サステナブルを指導する授業に参加させ、ベテラン教員の指導力を実見させると共に、サーキュラーエコノミーに対する意識を高めるよう指導した。 ・本年度は、教職員が兼務として行っていた学生募集を営業代行や非常勤講師にアウトソーシングした。また育児休暇等で補充が必要な学校事務にも派遣社員を充てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国連グローバルコンパクト会員や日本サーキュラーエコノミー会員との産学連携は学生にとって非常に有意義で学習効果も高い。次年度は、サステナブル教育をもう一步先に進ませるという意味で、例えばサプライヤー、メーカー、ベンダーに分類される企業から担当者を派遣してもらい、それぞれの取り組みを紹介するような授業も組んでいきたい。 ・教員の育成は喫緊の課題ではあるが外部の研修会が日中に行われることが重なり、参加したくても参加できない状況にあった。次年度は教員間で担当授業を代行し合うなどの柔軟な体制を構築する必要がある。 ・アウトソーシングに関しては、ある程度は実行できたものの、デジタルトランスフォーメーションに関しては、未だ必要性を検証している段階にある。次年度は出席管理の導入の他、生成 AI の業務活用を本格的に検討し、進めていきたい。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 理念・目的・育成人材像 理念に沿った目的・育成人材像になっており、WEB サイト、学校案内書、学生生活ハンドブックで明確に定めている。 理念等を実現するため、美術専門課程のデザイン・アート科、高度デザイン・アート科の2科を設置し、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを定め周知している。</p> <p>2. 人材ニーズの適合 本校は、持続可能な開発目標（SDGs）への支援を行っており、「目標4. 質の高い教育をみんなに」を主軸に、自分自身の可能性を信じ、地球環境や社会をより良く変革できる人材の育成を目指している。 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、国連グローバル・コンパクト、産学連携パートナー等の助言・協力を得て、情報収集、カリキュラム・シラバスの策定、教員採用、実習、教材等の開発を行っている。</p> <p>3. 特色ある教育活動 理念等の達成に向け、従来の美術・デザイン教育に捉われずに、より良い教育活動を目指し取り組み続けている。 結果、デザインアート思考®をはじめとした、特色ある独自の教育活動・職業実践教育を展開し、存在意義を明確化している。</p> <p>4. 将来構想 本校はビジョンを掲げ、WEB サイト、学校案内書で、教職員・学生・保護者・関連業界等へ周知している。そのビジョンを確かなものにするため、国連グローバル・コンパクト及び日本サーキュラーエコノミーパートナーシップの会員校となり、学校全体の電力を再生可能エネルギーへの切り替え、学校案内書をFSC森林認証用紙へ変更、WEB出願を開始し紙資源の節約に取り組んでいる。</p>	<p>1. 理念・目的・育成人材像 【建学の精神】世界に文化で貢献する 【目的】 地球環境と社会をよりよくするために、クリエイティビティを活用して多様な価値を創造できる人材の育成。 【育成人材像】 「クリエイター」「プランナー」「マーケター」</p> <p>2. 人材ニーズの適合 本年度は以下の産学連携パートナー等より助言・協力をいただいた。 （株）ヴィレッジヴァンガードコーポレーション、（株）カヤック、（株）ジェイアール東日本企画、ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス（株）、（株）資生堂ジャパン、（株）アマタ、（株）麵屋武蔵、（株）竹尾、（一社）日本コミュニティ放送協会、日本サッカー協会、サンスター（株）、コニカミノルタ（株）、日本エヌ・ユー・エス株式会社、UCC上島珈琲（株）、ANAエアポートサービス（株）、健美薬湯（株）、日本エヌ・ユー・エス（株）</p> <p>3. 特色ある教育活動 デザインアート思考®、産学連携授業、プロジェクトベースドラーニング、持続可能な開発のための教育（ESD）、グループワーク・チームワーク、ロジカルデッサン™、様々なクリエイティブスキルを学ぶことができる選択授業、プレゼンテーション、キャリアデザイン等。書籍化、企業研修採用の実績多数有。</p>

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 運営方針 運営方針は、理念等、教育目標、事業計画に沿って文書化し明確に定めている。年 2 回、各期の開始にあたり「指導方針会」を開催し、全教職員に対して運営方針等の周知徹底を図っている。</p> <p>2. 事業計画 事業計画は、理念等を達成するための中長期計画を踏まえながら、毎年策定している。 あわせて、事業計画実行管理表、予算実績管理表を策定し、執行体制、業務分担等を明確にしている。</p> <p>3. 運営組織 学校法人服部学園は、理事会、評議員会を寄附行為に基づいて開催し、必要な審議を行い、議事録を作成している。 理念等、教育目標の達成に向けて、学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しており、役割分担等、毎年見直しを行っている。</p> <p>4. 人事・給与制度 採用基準・採用手続きについては、職員就業規則にて明確化している。 給与支給、昇任・昇給の基準・規程等についても、同様に職員就業規則にて明確化して運用している。</p> <p>5. 意思決定システム 学校運営に必要な諸事案の決定を行うための意思決定の権限や役割分担等は、規則・規程で明確にしている。</p> <p>6. 情報システム 複数の情報システムを組み合わせ運用している。それぞれの特徴を踏まえ、学生指導に活用している。</p>	<p>1. 運営方針 常勤教職員を対象に、定期面談時、毎日実施しているミーティング時に責任者より運営方針の周知徹底、浸透度の確認を行っている。</p> <p>3. 運営組織 組織や各種会議を適宜見直し、マネジメント体制の強化、意思決定プロセスの迅速化、学園横断での情報共有・コミュニケーション向上等を行っている。 【学校運営組織】 教務部、指導部、キャリア支援室、学生支援室、広報室 【学校運営に関する会議】 経営会議、事業推進会議、指導方針会、朝会</p> <p>4. 人事・給与制度 職員就業規則に則り教職員を採用した。新入教職員がより早く職場や業務に慣れていけるようメンター制度を導入して、指導方針の共有は教職員の心的不安除去に努めている。</p>

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 目標の設定 カリキュラムポリシーにあるビジュアルコミュニケーション、デザインアート思考[®]、クリエイティブマーケティングの力を鍛えるべく、年4回の産学連携授業を通して修得していく。全体で修得する目標の他に、各行事や各授業など、それぞれにおいて多角的な評価ができるよう設定している。</p> <p>2. 教育方法・成績評価・単位認定等 ・持続可能な開発のための教育（ESD）を実践するため、サーキュラーエコノミー（循環型経済）を全学生へ指導している。 ・職業教育にて現代社会に即した人材を輩出するため、教育課程編成委員会を年2回実施し、カリキュラムや指導方法の見直しを行っている。各授業内にも詳細に段階を設定して、個別の修得状況がわかるようにしている。 ・成績評価の基準、単位修得については、学則に規定して募集要項や学生ハンドブックに掲載しており、それに即して実行されている。</p> <p>3. 資格・免許制度の取得の指導体制 Adobe Illustrator や Photoshop に関する試験「アドビ認定プロフェッショナル」を受けられる授業を設定している。就職先によっては自動車の普通免許を要するところもあるため、適宜取得を促している。</p> <p>4. 教員組織 各領域の知識、技術、技術技能レベルを満たした者を採用している。職業実践専門課程の委員会等の提言を参考に人材発掘をしている。毎年、採用計画および配置計画を定め直している。</p>	<p>1. 目標の設定 産学連携授業成果発表会は、前期2回、後期2回の実施ができた。本エントは全学年が課題を通してサービスマーケティングを学び、サービスの無形性に対してどのようなアプローチがあるのかを連携企業の事例を参考に見識を深めることができた。</p> <p>2. 教育方法・成績評価・単位認定等 ・授業内ではデジタルでの制作が多くアナログとの繋がりを修得するところに課題があったため、教育課程編成委員会での意見を参考に、企業と連携をして、アナログとデジタルを繋ぐ授業を実施した。 ・サーキュラーエコノミーを支える授業としてデータサイエンス授業や、知的財産の授業を全学年で行った。</p> <p>3. 資格・免許制度の取得の指導体制 ・2年生の必修授業では「アドビ認定プロフェッショナル」検定を受けるための授業を週1で実施した。前期はIllustrator、後期はPhotoshopの試験対策を行って、長期休みを利用して各自のタイミングで受験した。 ・「WEBマスター検定」を受けるための授業を、夏季特別実習の5日間で実施した。 ・2学年に対して特殊色印刷を学ぶ授業を実施した。公式な資格ではないが、グラフィックデザイン領域の経験値向上を目的とする。学びの成果としてコンペティションに参加して、12月に開催された「DOZEN ROSE FES 2024」「VALENTINE ROSE FES 2025」にデザインが採用された。</p> <p>4. 教員組織 百貨店勤務歴の長い教員を採用した。実践的なビジネスマナー教育の内容の充実と、部下教育の経験を学生指導に活かしていく。</p>

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 就職率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 学年は夏期休暇中にインターンシップや会社説明会へ参加して、就業意識の向上や、就職活動へのハードルを下げ、今後の動きを活性化させた。 ・ キャリアデザインの必修授業では、エントリーシートからポートフォリオの作成、面接指導を行い、時事問題への関心の低さを補填する時間を固定で儲けるなど、就職面接に必要な知識の保管を行っている。その他、授業外での個別相談についても、キャリア支援室を中心に随時サポートを行っている。 <p>2. 資格・免許の取得率</p> <p>資格取得が必須である企業への応募がないこともあり、各人が必要な資格取得を目指させる。中でも Adobe Illustrator と Photoshop は日常的に使用するため、検定を受けやすくする授業を設けている。</p> <p>3. 卒業生の社会的評価</p> <p>HP 等の制作に合わせて、卒業後約 6 か月以上の卒業生と職場の方に対してインタビューを行い、業務内容や自身の取組状況など、学校での学びをどういかしているか聞き取りを行っている。</p>	<p>1. 就職率</p> <p>企業の理念に共感できるかなど、業務内容より意義を求める学生が多いのが特徴的である。</p> <p>【令和 6 年度 内定率】 92.8% （2025/3/19 現在）</p> <p>【令和 6 年度 主な内定先】</p> <p>モリノブライズ (株)、PPIH、(株) ハゴロモ、(株) ショウエイ、(株) タンケン社、(株) コンセント、(株) アテナ、(株) 花恋人、(株) 丸亀製麺、岩下食品 (株)、(株) 生産者直売のれん会、(株) さら、特定非営利活動法人イシュープラスデザイン、株式会社 ENGI 等</p> <p>【令和 6 年度 内定先の主な職種】</p> <p>フォトグラファー、サービス、デザイナー、DTP オペレーター、企画、企画営業、営業、総合職、販売、アニメ作画等</p> <p>2. 資格・免許の取得率</p> <p>夏休み期間を利用して「アドビ認定プロフェッショナル」検定 (Illustrator) を受験した。後期は Photoshop の検定を受ける予定。</p> <p>【令和 6 年度 合格率】 76% (2024/11/25 現在)</p>

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 就職等進路 キャリア支援室が中心となって就職指導を組織的に行い、説明会の開催や視野を広げるための就職エージェントの紹介と並行して、学生の希望と適性を踏まえた個別指導を実施している。</p> <p>2. 中途退学への対応 出席状況の確認を教務部が行い、担任から個別の面談を行って、年2回の全員面談の他に、日々の変化を察知できる体制をとっている。</p> <p>3. 学生相談 期の終わりに全学年に定期面談を実施して、個々の目標設定や達成状況を確認しているほか、個別相談にも随時対応している。</p> <p>4. 学生生活 金銭面での学習の機会喪失がないように、授業料減免や給付型奨学金制度、本校独自の奨学生制度を周知して、説明会の実施や保護者への案内を行った。</p> <p>5. 保護者との連携 遠隔地に居住する保護者に配慮したオンライン説明会の定期開催の他、個別にフォローが必要な学生には適宜三者面談を実施している。</p> <p>6. 卒業生・社会人 社会人へのサポートは行っていないが、卒業後も就職活動を行う人や、転職活動をする人へのサポートは行っている。</p>	<p>1. 就職等進路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外で実施する就職セミナーや中小企業との懇談会などに参加して、担任の指導力向上や、昨今の学生について理解を深め、学生に合った指導を研究している。 ・2024年度は学内説明会と業界研究会を5社実施した。内3社は直近の卒業生や内定者同席にて、修得した力をどのように活かせるか、リアルな話を聴くことができた。 <p>2. 中途退学への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務部と指導部が連携をして、約2週間に1度全学年の出席状況をチェックして、欠席や遅刻が多い学生の洗い出したうえ、各担任から指導をして経過観察を行っている。 ・様々な理由で留年、卒業延期になった学生に対して、退学をせず、継続して卒業を目指す指導を行い、各々の目標を持って準備を始めた。 <p>3. 学生相談 カウンセラー制度の周知が行き届いてきて、後期はじめにかけて利用率が向上した。その結果、次年度へ能動的に向かうようになった学生がいた。</p> <p>4. 学生生活 本校独自の給付型奨学金制度の選考を実施して、出席率、成績、授業態度、経済面、利用計画などを考慮して、3名の学生が採用されて、学業の充実に充てている。内1名は、利用計画として挙げていた卒業制作での活用を活かし、優秀賞を受賞した。</p> <p>5. 保護者との連携 保護者説明会や個別面談を行うことで保護者との連携が取れて、退学を回避できる機会が生まれた。</p>

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 施設・設備等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備・教育用具等は、教育上の必要性に十分対応し、かつ、学生が快適に学習に専念できるよう整備している。 ・教室、トイレの清掃等の日常的な管理に加え、建築設備点検、消防設備点検、電気設備安全点検、エレベーター点検、補修等、老朽化等に備えメンテナンス体制を整備している。 <p>2. 学外実習、インターンシップ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生を対象に実施する国内文化研修では、フィールドワークを通して、地元の課題を解決する企画立案と提案を行っている。 ・短期集中授業では企業と連携をして、業界の最新情報の共有を行った。 ・企業からの依頼を受け、企画提案を行う機会を創出した。 <p>3. 防災・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年で発生した災害は、規模や形態などでこれまでの常識が通用しない内容になっているため、その状況においても機能する防災の組織や体制を整備し、マニュアルを作成・徹底し、学生および教職員の安全の維持・強化を行う。 ・安全の維持・強化のために、組織・体制の整備、避難訓練の実施や定期的な注意喚起の実行に加えて、柔軟で臨機応変な対応も行っていく。 ・安全管理についての意識を日常の授業遂行の中でも継続的に持ち、様々なリスクに対応していく。 	<p>1. 施設・設備等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館時・再入館時の入口での検温・消毒等、基本的な感染症対策は引き続き行っている。 ・授業中は二酸化炭素濃度計を活用して、定期的に教室の空気の入れ替えをしている。 <p>2. 学外実習、インターンシップ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2泊3日の研修で広島県尾道市を訪れ、尾道観光協会、尾道空き家再生プロジェクト、(株)東京03製作所の方にご協力いただき、尾道への若者の集客案を提案した。 ・(株)竹尾から紙についての講義を受け、実際に店舗で紙に触れてインスピレーションを受けたコミュニケーションツールの制作を行った。最終日は大日本印刷(株)にて活版印刷から最新の印刷を学んだ。 ・有志学生によって、DIC(株)の公式キャラクターの提案と、エース企画の商品企画を提案して、普段の学びを実践することができた。 ・特定非営利活動法人 green bird より個別のインターンシップ受け入れを実施いただき、有志の2年生が海洋ゴミに関わる資料作成に携わった。 <p>3. 防災・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を醸成するため、毎年防災訓練を行っているが、今年度も4月に学生、教職員等原則全員が参加で実施した。 ・インフルエンザなど各種感染症の流行が収まっていないため、消毒液の設置や部屋の換気を引き続き行い、マスクについても個人の判断による装着するという体制を継続している。 ・自然災害については、各種予報情報を収集し、臨機応変な対応を心掛けている。

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 学生募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校での進学説明会へ参加し、教育活動等の情報提供を行っている。今年度上期は、昨年度上期を超える回数を実施した。 ・外部企業による教員対象の研修会が開催され情報提供を行った。 ・対面での学校説明会と体験授業を毎週土曜日に開催している。また、遠方の方等、直接本校に来校できない方を対象にオンライン学校説明会・オープンキャンパスを毎週月～土曜日に開催し、参加機会の提供を行っている。 ・スチューデントアシスタント制度を設け、年 4 回開催の産学連携授業成果発表会での「学生プレゼン見学ツアー」や、「体験授業」では、在校生に直接触れることができる機会の提供を行っている。 <p>2. 入学者選考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選考基準・方法を明確に定め、募集要項、WEB サイトにて公開している。 ・全出願者に対して必ずインタビュー（面談）を実施しており、対面もしくはオンラインを選択できるようにしている。直接のコミュニケーションとアンケート等の提出書類で得た情報は、次年度のカリキュラム・シラバスの策定、指導等に活用している。 <p>3. 学納金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、学納金は教育内容、必要経費を基本に、他の専門学校・大学等の水準、一般的な家庭の経済状況も考慮の上、算定している。本年度も学費の変更は行っていない。その他徴収する金額を含めて、募集要項、WEB サイトへすべて明示している。 ・また、3 月末までの入学辞退者に対しては、入学金を除いた学納金を返還することも明示し、対応している。 	<p>1. 学生募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINE、Instagram、TikTok 等の SNS による情報発信、スチューデントアシスタントによる学生視点でのキャンパスライフの情報発信についても引き続き強化を行っている。また、教職員による地球環境や社会課題に関する情報発信も継続している。 ・昨年度より営業代行サービスを利用のほか、本校のことを熟知している非常勤講師らにも高校訪問に行ってもらうことで、より多くの高校の進学説明会に参加してきた。 ・今年度は学生が制作した学校案内書で募集している。学生ならではの視点で、高校生に響く情報を発信できた。また、制作した学生のアイデアで、製造中止となった残紙の使用や、留め具に針金ではなく和紙を採用するなど、持続可能な開発目標を支援し、教育している本校らしさを体現できた。 <p>3. 学納金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済状況により期日までの学納入が難しい学生から相談があった場合には、分納もしくは延納を認めるなどの対応をしている。 ・各自で用意する教材の中で、パソコンやソフトウェアについては、入学手続き完了後に販売会社・メーカーを招いた説明会を開催した。

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 財務基盤 教育環境を維持しさらに高度化するためには、校舎の改修や必要な機材の購入が必須であり、その遂行に必要な資金の確保が必要となる。そのためには入学者数を安定的かつ継続的に確保することが必須となるため、この収支バランスを安定させた運営を行う。</p> <p>2. 予算・収支計画 教育目標を達成するためには適切な事業計画と予算・収支計画を策定することが重要となる。予算・収支計画にそって業務執行し、その内容を定期的に確認・点検するとともに、想定外の展開にも適切に対応していく。</p> <p>3. 監査 毎年半期終了時に理事会で半期決算報告を行い、本決算時には理事会・評議員会で決算報告を行っている。報告内容については監査法人が確認しており、財務の適切性を維持・強化している。</p> <p>4. 財務情報の公開 財務情報については、文科省ガイドラインや職業実践専門課程で公開方法などが定められており、その内容に従って財務情報などの最新情報を毎年ホームページ上で更新し、継続的な情報公開を行っている。</p>	<p>1. 財務基盤 ・今年度も、高校訪問や説明会に参加し、活発な学生募集活動を行っている。 ・退学者についても、学生とコミュニケーションを密にして抑制を図っている。</p> <p>2. 予算・収支計画 毎年3月に、来期の予算・収支計画を策定し、事業計画と合わせて理事会評議員会に諮り確定させている。今年度は3/25に予定している。</p> <p>3. 監査 70期の決算に向けて、監査法人から受けたアドバイスに基づき経理処理を進めている。</p> <p>4. 財務情報の公開 「国の高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）」の対象であり、職業実践専門課程の認定を受けていることから、学校情報を公開しており、その中で財務情報についても公開している。毎年5月に前年度の年度末の情報をホームページ上で更新しており、今年も予定している。</p>

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 関係法令、措置基準等の遵守 学校を運営していくうえで法令等の遵守が基本姿勢であることを徹底するとともに、その対象である関係法令や遵守すべき措置基準を正確に認識し、所属や役割ごとに必要性に応じて知識を修得する。内容を適宜学園内へ周知・徹底を図っている。</p> <p>2. 個人情報保護 保護すべき個人情報は、志願者・学生・卒業生、保護者、講師など学校と関係する個人情報すべてとなる。個人情報保護法を正しく認識し適切に対応していく。特にシステムを活用する場合は細心の注意が必要となるため、適正な対応を継続的に行うようきめ細かな啓発教育を行っている。</p> <p>3. 学校評価 ・教育理念から社会貢献まで、幅広い観点から学校運営や教育活動について自己点検・自己評価を毎年行っており、その内容から改善すべき点を洗い出し、実行策を策定・実行して一層の質の向上を図っている。 ・各分野の外部委員にて構成された学校関係者評価委員会を年2回開催し、各委員からいただいた意見・提言を学校運営の質の向上につなげている。</p> <p>4. 教育情報の公開 教育情報については、文科省のガイドラインや職業実践専門課程で定められた公開方法に従って継続的かつ適正に公開している。</p>	<p>1. 関係法令、措置基準等の遵守 毎年同様今年度についても、前期後期に開催する指導方針会議で、講師服務規程を講師に配布し徹底している。</p> <p>3. 学校評価 毎年同様今年度についても、学校関係者評価委員会を年二回開催し、自己点検・自己評価の実施結果の報告等を行っている。</p> <p>4. 教育情報の公開 「国の高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）」の対象であり、職業実践専門課程の認定を受けていることから、学校情報を公開しており、その中で教育情報についても公開している。毎年5月に前年度の年度末の情報をホームページ上で更新しており、今年も予定している。</p>

基準 10 社会貢献・地域貢献・国際貢献

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校独自のカリキュラムであるデザインアート思考を学ぶことで、社内コミュニケーションの活性化に繋がる評価を得ている。 普段、学内でSDGsを学ぶ学生たちが、実際に地域が抱えている課題に取り組むカリキュラムを実行している。 <p>2. ボランティア活動</p> <p>ボランティア活動の実践を推奨しており、学生への参加機会の創出や案内を適宜行っている。</p> <p>3. 国際貢献</p> <p>国連グローバル・コンパクトへの加入を継続して、新規で日本サーキュラーエコノミーパートナーシップへの加入を行い、常に最新情報を収集して、学生が取り組む課題に、サステイナブル及びサーキュラーエコノミーの視点を取り入れている。学びを通して国際的な環境や社会問題へ関心を持ち、課題解決に貢献できる人材の育成を行っている。</p>	<p>1. 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県真室川町立真室川中学校のふるさと学習にて、全校生徒を対象にプレゼンテーション指導を行った。 前年に引き続き、本校のカリキュラムに賛同いただいた東京エレクトロン（株）への社員研修を実施した。 国内文化研修にて広島県尾道市を訪れ、地域活性につながる課題「若者が訪問したくなるプロモーションを考える」に取り組み、尾道市観光協会に対してプレゼンテーションを行った。 産学連携パートナーであるDIC株式会社と協働し、三重県四日市工場とその工場が持つ特殊技術をキャラクター化した「(仮称)リポスちゃん」を制作した。 アースデイトキーのブースに参加して、再生プラスチックの可能性を伝えるワークショップを実施した。 <p>2. ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 千代田区にある富士見わんぱくひろばで開催されるイベントに、有志の学生5名が、フェイスペインティングのボランティアに参加した。 学生数名が、特定非営利活動法人 green bird の清掃活動に参加した。